

令和2年度10月試験 プロジェクトマネージャ試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT人材教育研究部 2020,12,25

10月18日(日)に行われた令和2年度の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。新型コロナの影響で4月に実施予定だった試験が延期され10月に実施されたものです。IPAから発表された得点分布など統計データの分析をもとにして、プロジェクトマネージャ試験の合格発表コメントをお知らせします。

■プロジェクトマネージャ試験 (PM)

〔令和2年10月実施 プロジェクトマネージャ試験 統計情報〕

応募者	9,672人
受験者	6,276人
合格者	948人
合格率	15.1%

令和2年10月実施のプロジェクトマネージャ試験の合格率は15.1%で、前回の14.1%から若干増加しました。今回新型コロナウイルスの影響で受験者は大幅に減りましたが、受験率は高くなっています。

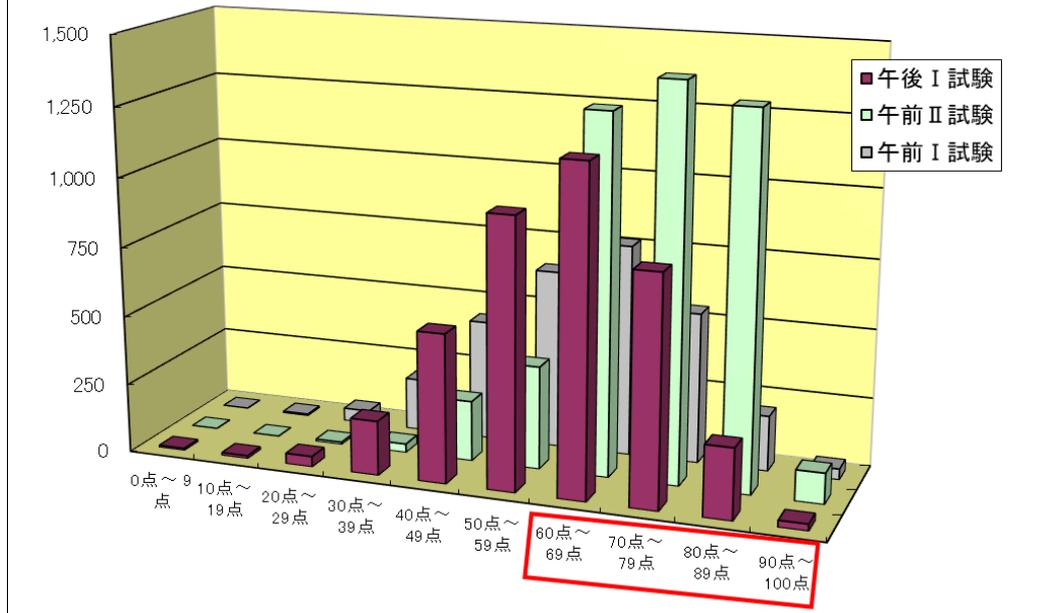
次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

〔令和2年10月実施 プロジェクトマネージャ試験 スコア分布〕

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	1	1	7		
10点～19点	6	1	10	D 145	
20点～29点	47	8	38	C 644	
30点～39点	191	31	197		
40点～49点	436	219	537	B 512	
50点～59点	647	373	968		
60点～69点	765	1,286	1,168		
70点～79点	545	1,405	821	A 948	
80点～89点	201	1,330	254		
90点～100点	39	111	24		
計	2,878	4,765	4,024	2,249	948
対前試験比率		165.6%	84.4%	55.9%	42.2%
午前Ⅰ免除者概算	3,398	54.1%			

合格者数	948	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	1,550	53.9%	602
午前Ⅱ60点以上合計	4,132	86.7%	3,184
午後Ⅰ60点以上合計	2,267	56.3%	1,319
午後Ⅱ-A評価	948	42.2%	0

令和2年 プロジェクトマネージャ試験 得点分布



午前 I 試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 3,398 人 (54.1%) おり、受験者の 5 割以上が午前 II からの受験となっています。この午前 I 試験で基準点 60 点以上取ることができた人は 1,550 人 (受験者の 53.9%) でした。

午前 II 試験で基準点以上の人 4,132 人 (受験者の 86.7%) で前回の 84.3% から微増です。

午後 I で基準点 (60 点) 以上取れた人は 56.3% で、前回の 56.5% とほぼ同じです。

午後 II で合格点の A 評価だった人は 42.2% で、前回試験の 39.9% から微増です。

■令和2年10月実施 プロジェクトマネージャ試験の出題内容について

(午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれていて、テクノロジー系 17 問 (57%)、マネジメント系 5 問 (17%)、ストラテジ系 8 問 (26%) という出題比率です。毎回、午前 I 試験を通過できる 60 点以上の得点者は 5~6 割で、足元をすくわれないよう、確実に対策を進める必要があります。

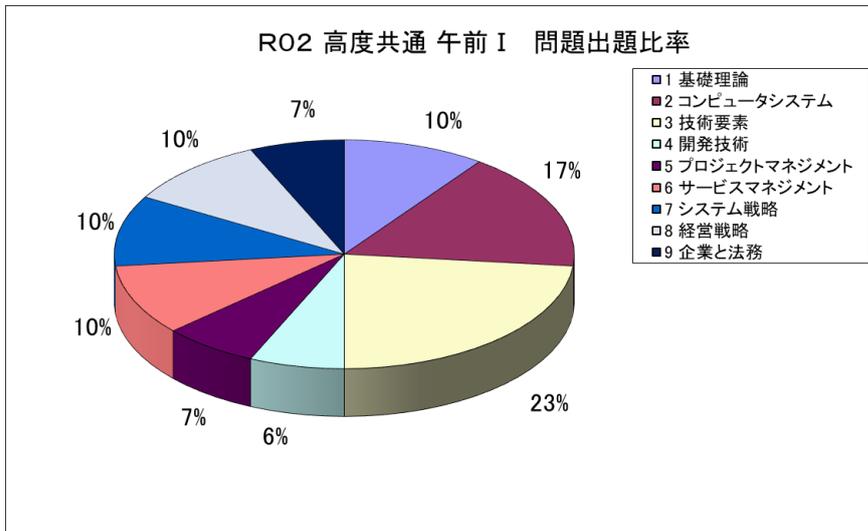
問題内容は、文章問題は 14 問 (前回 21 問から減)、用語問題は 7 問 (前回 1 問から大幅増)、計算問題が 5 問 (前回も 5 問)、考察問題が 4 問 (前回 3 問から増) でした。これらは毎回増減がありますが、今回特に用語問題が増えました。

- ・問題は出題範囲からまんべんなく出題されることが多いのですが、今回は、ヒューマンインタフェース、マルチメディア、システム企画、技術戦略マネジメントの 4 分野からの出題がありませんでした。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ 4 問でした。
- ・過去問題はこれまで約 7 割ありましたが、今回は新傾向問題が増えたため 6 割に減りました。内容的には定番問題が多く解答しやすかったといえ、全体として前回と同様レベルの試験だったと思われます。
- ・新傾向問題は次の 8 問で前回の 6 問から増えています。それ以前は平均 4 問程度だったので増回傾向にあるといえます。

(新傾向問題)

- 問 3 オブジェクト指向のプログラム言語
- 問 5 サーバコンソリデーションの説明
- 問 6 仮想記憶方式のプリページングの特徴
- 問 15 メール本文を含めて暗号化するプロトコル
- 問 17 アジャイル開発手法のスクラムの説明
- 問 27 CPS (サイバーフィジカルシステム) を活用している事例
- 問 28 企業システムにおける SoE の説明
- 問 30 プロバイダ責任制限法が定める送信防止措置

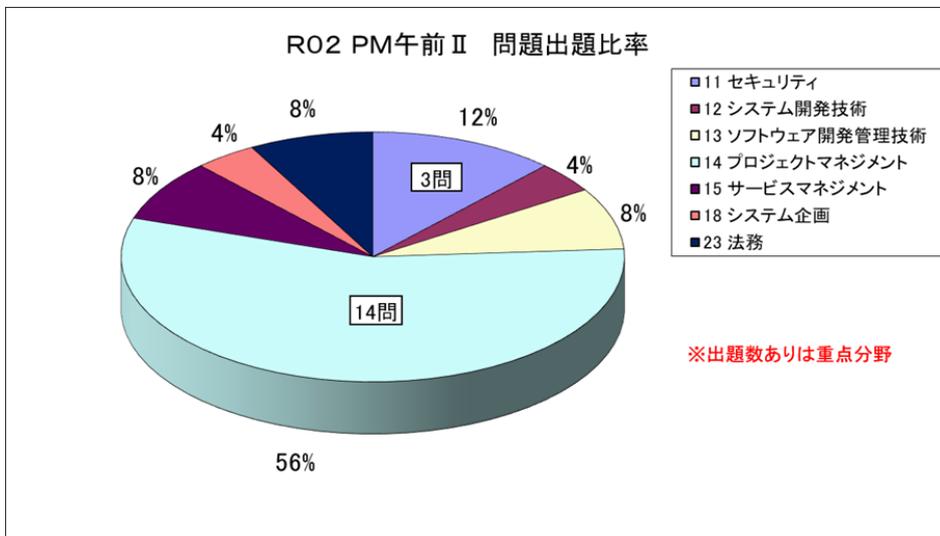
令和 2 年 10 月実施 高度試験共通 午前 I 問題出題比率



(午前 II 試験 (専門知識問題))

午前 II 試験では、専門分野のプロジェクトマネジメント (PM) 分野から 14 問出題されました (前回の 15 問から 1 問減)。前回の試験から PMBOK の出題は第 6 版対応になりましたが、PMBOK と明記した問題は今回 2 問 (前回 3 問) でした。また、JIS Q 21500:2018 「プロジェクトマネジメントの手引」の出題は 3 問 (前回 2 問) ありました。

令和 2 年 10 月実施 プロジェクトマネージャ試験 午前 II 問題出題比率



過去のプロジェクトマネージャ試験問題の出題は 6 問あり、この中で平成 30 年度の問題が 5 問ありました。前回 PM の過去問題が 11 問あったのに比べてかなり減っています。その分、応用情報 (AP) の過去問が 5 問出題されています。

新傾向問題は次の 5 問がありました (前回 7 問)。

問 2 プロジェクト作業の管理の目的 (JIS Q 21500)

問 8 スケジュールの作成における資源平準化の特徴

問 13 コストプラスインセンティブフィー契約における計算

問 14 コミュニケーションの計画の目的 (JIS Q 21500)

問 20 デザイン思考の説明

(午後 I 試験)

午後 I 問題の出題テーマと設問内容は、次のとおりです。問 1 が DX 推進におけるプロジェクトの立ち上げで AI 活用をする新しい内容といえます。問題文の量、設問数・解答記述文字数などは従来と同じで、難易度も普通といえます。

問 1 DX 推進におけるプロジェクトの立ち上げ (化学製品製造業) やや易～普通

DX による生産コスト削減, システムの構成要素, IT 組織, 工場の生産プロセス最適化, 工場でのヒアリング, PM としての提案, PJ 憲章の作成, チームの編成, PJ の進め方

問 2 システム開発プロジェクトにおけるプロジェクトチームの開発 (ソフトウェア企業) 普通

リリース間隔短縮の要望, スケジュール, 新 PM の任命, 生産性向上のためのチーム状況観察, ヒアリング, ミーティングでの議論, チームの行動基本原則, サービス価値向上のステークホルダ

問 3 SaaS を利用した人材管理システム導入プロジェクト (中堅旅行会社) 普通

人材管理制度の見直し, 管理システム導入計画, SaaS 利用方法・標準機能と効果, PJ 体制と要件定義, 会議のコミュニケーション方法, チャットツールの運用ルール

(午後 II 試験)

午後 II の論文問題の出題分野とテーマは次のとおりです。今回の出題内容の特徴としては、2 問とも具体的なテーマに絞られた問題になっていて、経験がないと記述しにくい内容だったといえます。

問 1 未経験の技術やサービスを利用するシステム開発プロジェクトについて

プロジェクトの検証フェーズ, 検証結果と情報のステークホルダ理解, PJ の特徴・システム要件・PJ への要求事項, 実現性の検証と計画更新のための活用, 結果や情報の活用評価と今後の改善点

問 2 システム開発プロジェクトにおけるリスクのマネジメントについて

PJ 外部のステークホルダ起因のリスク, リスク評価後のコンティンジェンシ計画策定, リスクの監視, PJ の特徴, 計画時に策定したリスク, 特定理由, リスク評価と対応策・監視方法, 今後の改善点

